令和６年度第２回袖ケ浦市郷土博物館協議会

１　開催日時　　令和６年１１月１５日（金）　午前１０時００分開会

２　開催場所　　郷土博物館　研修室

３　出席委員

| | | | |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 伊藤　誠 | 委　員 | 加藤　正人 |
| 副委員長 | 友田　賢司 | 委　員 | 木曽野　真紀 |
| 委　員 | 前沢　幸雄 | 委　員 | 近藤　敏 |
| 委　員 | 山本　博 | 委　員 | 地引　尚幸 |
| 委　員 | 今井　惠子 | 委　員 | 唐木　義昭 |

４　出席職員

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教育長 | 鴇田　道雄 | 主　幹 | 稲葉　理恵 |
| 生涯学習課長 | 重田　克己 | 主　幹 | 桐村　久美子 |
| 顧　問 | 稲木　章宏 | 副主査 | 水流　拓馬 |
| 館　長 | 西原　崇浩 | | |

５　傍聴定員と傍聴人数

| | |
|---|---|
| 傍聴定員 | ５人 |
| 傍聴人数 | ０人 |

６　議題

（１）博学連携事業の現状と今後について

（２）博物館施設の現状について

７　議事

**伊藤委員長**　では、報告（１）博学連携事業の現状と今後について、事務局から説明をお

願いいたします。

**事務局**　　資料に基づき説明

**伊藤委員長**　議題（１）博学連携事業の現状と今後について、何か質問ありませんか。

**唐木委員**　　私は、他の博物館がこのことについてどういうことをやっているのかなということで、５館くらい博物館のホームページを見てみましたが、やっていることはあまり当館と変わらないですね。内容は、多少違いはあるんですけど、やっていること自体はあまり変わらない。それがうまく回ってないのであれば、この『そではくの使いかた』が作成からかなりの時間が経っているから、そういう面でうまく回ってないのかなという気がするんですね。

それを回すためにはどうしたらいいのかということで、この『そではくの使いかた』の中で３１ページに「郷土博物館と学校を結ぶ架け橋にー総合教育センターの活用ー」とありますが、総合教育センターや生涯学習課が鍵だと思います。これだけ膠着した活動になった場合は １回仕切り直すべき時期ではないのかな。総合教育センター、それから生涯学習課、その三者が集まって話し合い、一から仕組み直すというのが私は必要ではないのかなという気がしました。そうしないと、やっぱりいつまでたっても全然進歩ないということになるのかと思います。

もう一つは他館のホームページを見た中で、学習テーマですけれども当館のテーマは時代が古い。他を見ると近代的なテーマから現代のテーマで、昔はこうでしたが現代はどうですかといった問いかけるような発言や、全体的なテーマを扱っているところが多いですね。そういう面で言ったら、学習のテーマもやはり考えた方がいいのかなという気がします。

**事務局**　　はい、ありがとうございます。いろいろとホームページを見ていただいたという話をお伺いしまして、他館でも同じようなことがされているということを確認できました。ですので、当館もですけれど、他館もおそらく同じような時期に博学連携の気運が高まって、そのタイミングで形が決まったところで、ずっと同じようにやっている、だから変わらないのかなということが、唐木委員がお調べいただいたことで私たちも分かりました。ありがとうございました。

**西原館長**　　今 『そではくの使いかた』３１ページの話が出ましたが、総合教育センターとは現在も相互に協力しあう関係にありますけれど、ただやはり課題として上がっているように、なかなか連携が取れてないというところもありますので、またそれについては関係課等でうまく調整しながら、いただいたご意見を踏まえて対応してみたいと思います。ありがとうございます。

**伊藤委員長**　よろしいでしょうか。それ以外で何か意見質問でもいいですがありますか。

**今井委員**　　コロナの前ですけれども、私ども機織りの会が中学校の家庭科の時間をいただいて、布というものが縦横に糸を絡ませて線であったものが面になっていくんだよという話と体験を、中学３年生にしたことがあったのですが、当時その中学校の家庭科の講師であった方と話をして体験メニューを考え、私たちも実際にやってみた上で行ったのですけれども、私たちの方で、中学３年生がどのくらいの作業をどのくらいの時間でやっていけるだろうかという、子どもたちの実態というものがきちんと掴めていませんで、期待した作業までできなかったんですね。それで、実際に作品を作り上げるという喜びまで連れてってあげられなかったので、とても私たちにとっても子どもたちにとっても消化不良のような後味が残ってしまいました。

ミュージアムフェスティバルでも、一般の希望者に参加してもらって布を作るということはやっているのですけれども、それの次のステップとして、できれば学校単位の集団の子たちに、この様子をもっとよく知って体験して、さらに作品の完成まで持っていきたいなという気持ちがあるのですが、私たちの会の方も活動が今、カラムシの方に向いているものですから、時間がもっとかかるかなと思っているのですが、機織りの会はまだそういう気持ちを持っているなということを、博物館スタッフにも頭のどこかに置いておいていただければと思います。

**西原館長**　　不特定よりも学校とか体系的にうまく計画的に進めていきたいということでしょうか。

**今井委員**　　そうですね。今、家庭科、生活科と言うのでしょうか。講師の身分の方が多いんですね。なかなか学校におられる時間に限りがあって、お会いして一緒に作業するみたいな時間が取りにくかったです。

**友田委員**　　回数を増やせば。１回目でここまでやって、２回目は前にここまでやったから、次はここからやりましょうというはどうですか。

**今井委員**　　それはそうなのですが、１時間しかなくて２時間あればということもあったし、布を裂いて紐状のものを作っていくところからプログラムしたのですが、彼らはハサミを使って１センチ幅の紐を切るという作業が想定した１０分ではできなかったり、子どもたちの生活の中の能力というか、それがきちんと掴めていなかったかなと思いました。

**木曽野委員**　私も小学校の家庭科のボランティアに行ったんですけれど、布を切るときに、

子どもが断ち切りバサミの持ち手を逆にして一生懸命切ろうとしていて、親指と他の指では入れる場所が別ですけど、それはわかっていて、逆にして一生懸命切ろうとしていて、びっくりしました。家庭では触れたこともないようです。

**今井委員**　先ほど唐木委員がおっしゃった現代的なテーマというのを、現代っ子の様子というか実態というか、私たちの持っていたプログラム自体も今の子に合わせて練り直さないといけないんだなと感じます。確かに、布を裂いて紐を作る。その時も何にするんだみたいな感じで、生活の中ではないですもんね。

**近藤委員**　手仕事を今の子どもは知らないのだと思います。親もやってないので。私も土器作りでやったのですけど、土器作りだと粘土紐を廻すのですね。粘土紐も作れない。泥遊びしてないから、パサパサの粘土だと粘土紐ができないとか、そういうこともわからない。我々の子どもの頃とは全く別の世界のことになっています。これでは学校の先生から、きちっと聴取してからプログラムを作らないと難しいだろう。泥遊びをしないなんて、我々のころには考えられないけど、今の子たちはしてないみたいです。

**木曽野委員**　打合せから時間かけないとだめなんですね。

**今井委員**　そうなんです。家庭科の教科委員に来てもらって一緒にやりましたが。ミュージアムフェスティバルでもそうですけど、以前は面白がって根を詰めてやる子がいたのですけれど、これを学校にもっていくという難しさ。これ以上無理なのかなとは思いますが、もっと作業を簡単にして、５人のうち真ん中の３人くらいできればというように、私たちも気持ちを下げなきゃいけないのかなと思いました。

**前沢委員**　『そではくの使いかた』ができたのが、私がちょうど袖ケ浦に来たくらいで２０数年前になるのかなと思うのですけれど、やっぱり学校の中身も違っている、教育内容も、当然教える中身も変わっているということと、教える時間も大幅に減ってきているというところはあるかなと思います。授業日数が過去ですと、２０５とか２０４、学校に来なければいけない日がそのくらいあったところ、今もう２００日をすでに切っていて、１９７とか８とかって１週間分ぐらい減っているという事は、１日６時間とすれば６４２時間、学校で勉強する時間が減っているという現状です。これは別に悪いことではないと思うのですけれども、学校の中で何を教えるのかっていうのを精選してきているので、今、家庭科の授業ももちろんそうですし、社会科の勉強もそういう少し余分にあった時間ができなくなってきているから、どうしても「１時間でやってください」というようなお願いをする場面が多いかなという気がします。一方で、学校に

来ていただく方は、多分子どもに伝えたいボリュームがたくさんあると思います。そことの折衷案は非常に難しいところだし、さらに今言ったように、もうすでにお茶を家庭で入れてない家もたくさんあると思うのです。急須って何っていう世界もあると思うのですよね。そういった家庭で育ってくる子どもたちにこちらが０から行こうとすると非常に大変なので、やっぱりその中身っていうのは学校と来ていただく方で、充分打ち合わせをするとか、今の子どもの現状はこうなのでということも含めて１回見に来ていただいて、さらに授業がこうしましょうというような形の仕方なのかなというふうに思っています。

最初の方であった袖ケ浦市の博物館と学校との連携というのが決して少なくなっているとは私は思ってないです。博物館の方もアウトリーチ、出前事業みたいな形で学校には関わっていただいているし、どんどんどんどん子どもの数が増えてきている学校に、奈良輪小がもちろんそうですけれども、博物館の方から来ていただいて、いろんな道具を持って土器を持ってきてもらったり、行灯を持ってきていただいたりということで授業展開してくれるので、それは他の市ではなかなかないところなのかなというふうに思います。ただ、中身がどうなのかっていうのは検討しなきゃいけないし、ちょっとお話が出ていましたよね。中身がちょっと古いのではないかというような話が出ていた。そこはやっぱり検討する必要があるかなというのを思っております。

この前、歴博に行きました。「歴史の未来」っていうテーマで、そこに興味があって行ってきたのですが、自分の足元というか、過去を見ることによって未来も考えていきましょうという、そういう発想で展示をされている。これはなかなか面白いなというふうに思ったので、博物館が昔のことをこういろんな展示をしてくれる提示をしてくれるっていうのみじゃなくて、学校と協力しながら、じゃあ子どもたちの未来に向かってどう考えていくの、社会をどう見ていくのっていう、そういう少しスケールの大きい学習も学校ではしていきたいな、というのは行った時にちょっと感じましたので、また今後とも連携していければというふうに思います。

**事務局**　いろいろと皆様にお話を聞きまして、私たちの方で見えてなかったことがたくさんあったなと思いました。特に今井委員のお話にあった家庭科の授業、私も当日の立ち会いということで一緒に行かせてもらいましたが、その打ち合わせ等とかは参加してなかったので、参加していた子どもたちは当日とても楽しんでいるように私には見えたのですけれど、やはりお互いにちょっと消化不良のところがあったのかというのは、今初めてわかりましたので、やはり当日の実施に至るまでの打ち合わせは本当に大事だということが改めてわかりました。ありがとうございました。

**伊藤委員長**　小学校３年生の体験っていうのは結構皆さん喜んでやっていますよね。最後

に餅を食べたり、そういうものも必要じゃないかと思います。餅を焼くなんて、今時あまり機会がないですから。

**伊藤委員長**　それでは続きまして、議題（２）博物館施設の現状について説明をお願いします。

**事務局**　　資料に基づき説明

**事務局**　　実際の不具合等の現状については、これから館内をご案内しながらお話ししたいと思います。荷物は置いたままで結構ですので、お席をお立ちになって移動をお願いいたします。

（１階歴史展示室、２階情報提供室・山野貝塚展示室・上総掘り展示室、収蔵庫１・２・３を見学）

**伊藤委員長**　見学して、何か質問がありますか。

**唐木委員**　　収蔵庫ですけど、今年９月３日付の読売新聞の記事でどこも収蔵庫がいっぱいですよという記事があったので単純に思うのですが。アンケートとった中で、７５％くらいがいっぱいという結果が出たらしいのですけれども、その中で減らす場合どうしたらいいということで、まずもったいないですけど、廃棄。ただ簡単に廃棄していいかどうかっていうのは難しい問題があって、きちっとしたその条件が決められてないとまずいだろうと思います。もう一つは他の博物館に移管したらどうですか、ということです。所蔵は当館のままで。そういった移管の仕方、それは逆に向こうの相手方からこっちということもあるかもしれませんけれども、そういうことが記事に載っていましたが、当館としてはそのような場合の規定等はどうなっているのかお聞きしたいのですが。もう一つは、私も知らなかったのですが、あえて収蔵スペースを見せるというやり方が最近主流になっていると聞きました。要するに収蔵庫のものを一般の展示として取り扱って見ていただくことで、博物館の内情を知っていただくということも、最近よくやられているということを聞きました。そういうことで、合わせて３点について考えてはどうでしょうか。

**西原館長**　　ありがとうございます。そのアンケートは当館の方でも回答しているものだと思いますが、まず、そういう取り組みをするというのは、今のところ考えはありません。ただ、考えありませんというよりも、また考えなければいけないのですが、現実的に栃木県ではすでに廃棄への基準を設けて、規則を作って、廃棄をするための委員会を開いて、実際に廃棄しています。そういった先進事

例もありますので、何でもかんでもこう収蔵庫がないからダメだっていうわけではなくて、やっぱりそういうことも先々は考えなきゃいけないかもしれないですね。それから、他の博物館のものですが、基本的に当館は地域資料を集めているので、他の地域の資料はあまりないです。ですので、もし相手方の必要性があるのであれば、考えてもいいかなと思いますが、今はあまり事例としてはないかなと思います。

それから、見せる収蔵施設ですけれども、それはやはり構造的なものにも関わってくるので、難しいかなと思います。けれども、一つの考え方として、そういうものを取り入れたいなと思った場合、埋蔵文化財の方では補助金がありまして、施設を作るときに博物館施設に準じた機能を作りつつ、ガラス張りにして作業をしているところを見せる、収蔵施設を見せるというような施設を作る時にもらえる補助金もあります。そういうところからお金を貰ってやるのも一つかなと思うけれど、当市には現実的にはないかなと思います。

**伊藤委員長**　皆さん市原は行きましたよね。市原よりは当館の方が収蔵庫も多く、物もたくさん入れられる。ただ、新しいから整理されている。

**西原館長**　先ほどの唐木委員の言われた廃棄については先々本当に考えなきゃいけない問題だというように、こちらとしても認識はしております。

**唐木委員**　例えばいつからするか分かりませんが、今言った見せる収蔵、そんなことも考えてもらってもいいのかなという気はします。基本的に。入れ物が増えればもちろんいいでしょうけれども、建物を調整するとか難しいと思うのですね。それで考えられることは、ちょっと見たのですけど、廃校を利用してそこに資料を入れるという事例を読みました。それが現実的にはどうなのかはわかりませんが、要するに市として使ってない入れ物を使うというのはどうかなと思いました。もう１つは、アクアラインなるほど館を見せる収蔵施設にするというのも考え方としてあると思います。

**西原館長**　今、唐木委員が言われたことも一理あるかと思います。ただ、今、現実的にはアクアラインなるほど館も受付を常駐していないで閉まっている状態なので、開いているか閉まっているかわからないといった、ちょっと中途半端な施設になっていますので、そういったところの収蔵施設としての活用というのも一つの考え方に今なろうかと思いますが、ちょっと現時点ではまだ何とも言えないところです。

**伊藤委員長**　ありがとうございました。

**地引委員**　もう一つ聞きたいのですけれども、最近地震が頻発しています。これは私が博物館にいたころの話ですが、今日、収蔵庫を見せていただいて、だいたいの資料はラックの中に入っていたのですが、地震で横揺れがきたときにはラックから落ちる可能性がある。大掛かりな工事をしなくても、たった一本の紐を張るだけでも違う。資料は出し入れもあるからむしろ紐の方が良い。いかがでしょうか。それから私は民俗が専門ですが、民俗資料というものは場所をとります。デジタル時代になり、同地区で同じ資料については、資料の整理が終わったら、必要な学校や公民館など公的機関に展示してもらってもいいかなと思います。また民俗文化財の場合、劣化や耐用年数が過ぎた資料は、順次廃棄していくのもやむを得ない時期にきているのだなと思います。そのためにもデジタルデータで残していくことが重要だと思います。

**西原館長**　ありがとうございます。廃棄がちょっと、なかなか難しいかなとも思っているのですけれど、基本的にいただいた方のこともございますので、こちらだけが一方的に、もう同じものだから、もう汚くなったからと言って、廃棄はなかなか難しいだろうなと思いつつも、でも今ギリギリなので、言われた通り、またいろいろ考えていかなければいけない時期に来ている、来始めてきたというところですかね。ありがとうございます。

**唐木委員**　アクアラインなるほど館については、まだ議論はされていないのですか。どうしようかという議論は。私は以前、アクアラインなるほど館を山野貝塚の専門館にしたらどうですかという話をしたことがあります。現状維持でということでしたが。市原の体験館ですか、ものすごく施設も大きいですけど、ああいう使い方をしていただけないかなという私の要望なんですけれど。コロナの時に、換気が良くないということだったと思うのですけれど、換気はしなければいけないですが、机と椅子さえあればいいんじゃないですかね。投資としては、そんなに必要ないのではないか思います。これから子どもたちのため、いろいろ検討するのであれば、それも一つの選択してもらえないかなという希望です。

**伊藤委員長**　よろしいですか。ありがとうございました。それでは以上もちまして、会議の方を終了いたします。

**事務局**　ありがとうございました。最後にご報告がございまして、毎年２月に行っております生涯学習推進大会の方へ、博物館協議会から実行委員を推薦させてもらっておりますが、本来でしたら、本日の会議で人選について諮るべきところでございますが、締め切りの関係で委員長とも相談の上、今井委員にお受けいただきましたので、ご承知おきください。今井委員よろしくお願いいたします。

**西原館長**　今回の会議が、今期２１期の博物館協議会の任期が１月いっぱいですけれども、会議自体が今日は最後になりますので、皆様方が集まるのは、これが最後になります。そこで一つご報告がございまして、現在委員長の伊藤委員が今期で退任されることとなりましたので、この場をお借りしまして、報告をさせていただきたいと思います。

**鴇田教育長**　委員の皆様におかれましては、第２１期ということで、令和５年２月１日から２年間にわたり、本当にありがとうございました。特に伊藤委員長につきましては９期ということで、長期間にわたって本当にありがとうございました。

**伊藤委員長**　では、本当に以上を持ちまして終了したいと思います。長い間務めさせていただきました。今後はよろしくお願いいたします。以上です。

**事務局**　ありがとうございました。以上をもちまして、令和６年度第２回袖ケ浦市郷土博物館協議会閉会とさせていただきます。慎重審議ありがとうございました。

閉会

# 令和６年度第２回袖ケ浦市郷土博物館協議会

## 会議次第

日　時　令和６年１１月１５日（金）
　　午前１０時から
場　所　郷土博物館　研修室

１　開　会

２　委員長あいさつ

３　教育長あいさつ

４　議　題
（１）博学連携事業の現状と今後について（１０分）【質疑２０分】・・・　１

（２）博物館施設の現状について（５０分）【質疑２０分】・・・・・・・　４

（３）その他

５　閉　会

# 第２１期袖ケ浦市郷土博物館協議会委員名簿

| 氏　　名 | 選　出　区　分 | 備 考 |
|---|---|---|
| 前沢（まえざわ）　幸雄（ゆきお） | 学校教育<br>奈良輪小校長 | １期目 |
| 山本（やまもと）　博（ひろし） | 社会教育<br>文化協会 | １期目 |
| 友田（ともだ）　賢司（けんじ） | 社会教育<br>子ども会育成会 | ２期目 |
| 今井（いまい）　恵子（けいこ） | 社会教育<br>郷土博物館友の会 | １期目 |
| 加藤（かとう）　正人（まさと） | 社会教育<br>市民学芸員 | １期目 |
| 木曽野（きその）　真紀（まき） | 家庭教育<br>保育ボランティアひよこ | １期目 |
| 伊藤（いとう）　誠（まこと） | 学識経験者 | ９期目 |
| 地引（じびき）　尚幸（ひさゆき） | 学識経験者 | １期目 |
| 近藤（こんどう）　敏（さとし） | 学識経験者 | １期目 |
| 唐木（からき）　義昭（よしあき） | 学識経験者 | ３期目 |

任　期　令和５年２月１日から令和７年１月３１日まで

## 議題（１）博学連携事業の現状と今後について

### １　提案理由

袖ケ浦市郷土博物館は、昭和５７年の開館時より学校教育への協力援助を博物館活動の基本方針として掲げ、博物館利用研究員制度・博学連携研究員制度を導入するなど、学校の現状・希望を直接聞き取り、個々のニーズに合わせた博学連携活動を展開し、事例を積み重ねてきた。その後、研究員となる教職員の負担を考慮し、博学連携事業の集大成として作成した『そではくの使いかた』の刊行を契機に、平成１７年度に博学連携研究員は発展的解消とした。

博学連携研究員の発展的解消から約２０年が経過し、現在も市内全小学校から小学校３年生・６年生の校外学習またはアウトリーチの利用があり、市民学芸員をスタッフとして事業は活発に行われているが、内容は定型化し、かつてのように新たな実践事例が生まれるといった状況ではなくなっている。また、体験学習の担い手である市民学芸員も現在、世代交代の時期に来ており、今後も同様に継続できるのか不確定である。さらに、教職員対象研修会や図書物流の活用など、一時期盛んに活用されていたものが、実質行われなくなっているといった現状も見受けられる。

以上により、更なる郷土博物館の発展に向け、現在の博学連携事業の現状を検証するとともに、今後の取り組み等について検討するものである。

### ２　博学連携事業の経緯

昭和 57 年度　博物館開館

昭和 61 年度　**博物館利用研究員制度開始（各学校から１名選出）**

**平成７年度～ リニューアルのため閉館**

**平成９年度　博物館リニューアルオープン**

**博学連携研究員制度開始**

**（博物館利用研究員を発展させる形で組織化）**

**以後、博学連携の実践事例を積み重ねる**

平成 14 年度　学校完全週５日制実施

**『博学連携実践事例集　そではくの使いかた』刊行**

平成 16 年度　**図書物流システムに加入**

平成 17 年度　**博学連携研究員制度を発展的解散**

**市民学芸員１期生活動開始。体験学習スタッフの主軸となる。**

## 3　博学連携事業の現状

（1）事業内容

① 校外学習支援

② アウトリーチ

③ 資料貸出

④ 教職員対象研修会

⑤ 学習相談

（2）現在の主な体験学習プログラム

①小学校３年生の校外学習

【本館】明かりの教室、昔の道具、上総掘り等

【旧進藤家住宅】炭火アイロン体験、石臼体験、唐箕体験、火鉢でもち焼き

野良着試着（コロナで中止後、実績なし）

進藤家探検（建物について丁寧に説明。屋根裏の探検等）

※旧進藤家住宅の体験学習スタッフは全員市民学芸員。唐箕体験は市民学芸員の発案により実施。現状では発案した市民学芸員が稲穂等も用意してくれる。

②小学校６年生の校外学習

堂野古墳群・竪穴住居探検、ドキ土器タッチ（土器観察)、勾玉作り

展示室解説（地区の歴史の話）

③アウトリーチ

坂戸神社の森探検（昭和小学校３年生）

坂戸神社古墳に行こう（昭和小学校６年生）

学区の古墳巡り（中川小学校６年生）

学校で、土器の話（蔵波小学校・昭和小学校６年生）

山野貝塚（根形中学校）

④その他、単発授業等

根形中学校　戦争について（令和５年度）

袖ヶ浦高校　上総掘り等

（3）現在の体験学習受付方法

・１月、博物館から各学校へ次年度の利用希望を確認（文書で送付）→

学校から FAX 等にて返信→博物館から学校へ結果を取りまとめて連絡・確認

学校は、次年度の担当に引き継ぎ

（４）その他の博学連携事業の現状

・図書物流システムは、図書の他取り扱いが比較的軽易な資料について活用する意向で臨んでいるが、ほとんど利用がない。

・教職員対象研修会は、令和４年度を最後に行われていない。

## ４　博学連携事業の課題と展望

（１）これまでの検証による現状・課題・展望

令和４年度第２回博物館協議会において博物館事業の検証を行った際の博学連携事業の現状・課題・展望は以下のとおり。

**現状**・小学校３年生・６年生の校外学習支援とアウトリーチが主体となっている。

**課題**・学校との関係や体験の内容に定型化が進み、学校からのリクエストに対応した多様な実践例が少ない。

・博学連携実践事例集『そではくの使いかた』を刊行してから２０年が経過しており、内容も古くなっている。

・中学校との連携が少ない。（職場体験のみ）

・資料等を貸し出すための物流システムの活用が図られていない。

**展望【地域素材の活用と多様なアウトリーチの提案】**

・各学校の地域別の特色を研究し、学校との対話や地域素材研究を進め、活動に取り入れる。

・学校の来館する回数を増やすのは難しいため、アウトリーチでできる学校別プランを提案していく。

・『新そではくの使いかた』を作成する。

・中学校を主体とした山野貝塚学習プログラムを確立し、実践する。

（２）博物館から見た問題点

問題点①　博物館と学校の情報共有ができていない。学校との連携は体験学習の連携が主となっている。

問題点②　博物館側のスタッフ不足

問題点③　プログラムが固定化し、新たなプログラムが開発できていない

問題点④　生活科・社会科以外での活用がない

問題点⑤　図書物流の活用ができていない

## 議題（２）博物館施設の現状について

### １　提案理由

袖ケ浦市郷土博物館は、昭和５７年の開館から１５周年に当たる平成９年に、展示リニューアルした。その際に旧館建物の改修と新館増築を行い、館内に収蔵庫３室と書庫１室を設置したほか、館外に２階建て収蔵庫１棟、１階建て収蔵庫１棟、コンテナハウス１棟を有している。しかし、これらの収蔵庫等も飽和状態に近く、収蔵スペースでない箇所にも資料が仮収納されているのが現状である。

また、常設展示室も構造上大規模な展示替えができないため、毎年一部資料の入れ替えは行っているが、大きく変わらないため変化に乏しい。さらに、リニューアルからも２７年が経過して建物の老朽化が進み、雨漏りをはじめさまざまな不具合が館内各所で起きており、今後の博物館活動の充実とさらなる飛躍のためには、建物の大規模改修と展示リニューアルを検討しなければならない時期を迎えている。

以上により、大規模改修に向けて計画を進めていくために、現状を確認し共通理解を深めるものである。

### ２　博物館建造物の沿革

昭和５７年　３月　旧館本体工事終了
　　１１月　博物館外構工事・常設展示工事完了
　　博物館開館
５８年１０月　１階建て収蔵庫（収蔵庫４）建設
５９年１２月　常設展示更新・追加
　　マルチスライド製作
６１年１０月　屋外に上総掘りの足場設置
　　常設展示展示替え・追加
６２年　４月　弥生時代復元住居建設
６３年　４月　奈良時代復元住居建設
平成　元年　４月　万葉植物園、石造物復元工事完成
３年　７月　旧進藤家住宅移築工事完成
５年　５月　２階建て収蔵庫（収蔵庫５）建設
６年１１月　増築部建設工事
７年　５月～休館。既存建物改修工事
９年　４月　リニューアルオープン
１０年１２月　アクアラインなるほど館オープン

### ３　博物館施設の現状実見

# 令和６年度第２回袖ケ浦市郷土博物館協議会

# 会議参考資料

議　題

（１）博学連携事業の現状と今後について

参考資料　体験学習等プログラム例　・・・・・・１

（２）博物館施設の現状について

参考資料　施設概要（『袖ケ浦市郷土博物館要覧 2023』より）・・・・９

別冊資料　『そではくの使いかた』

議題(1)参考資料

# 根形小学校6年生郷土博物館体験学習

令和5年6月30日(金)※荒天の場合は中止

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8:20<br>8:30 | | 出発式(根形小学校) | | |
| 9:40 | | 歴史散策<br>(地図を持って出かけよう！マップを使用し、博物館までの道程にあるものを紹介)<br>(70分)<br>〔　　〕 | | |
| 9:45 | | 郷土博物館到着<br>ここから1組・2組混成で3グループ行動 | | |
| 10:15 | | 歴史展示室見学<br>(30分)<br>〔　　〕 | 土器観察<br>(30分)<br>〔　〕 | 勾玉づくり<br>(30分)<br>〔　・市民学芸員〕 |
| 10:20 | | 移動 | | |
| 10:50 | | 勾玉づくり<br>(30分)<br>〔　・市民学芸員〕 | 歴史展示室見学<br>(30分)<br>〔　　〕 | 土器観察<br>(30分)<br>〔　　〕 |
| 10:55 | | 移動 | | |
| 11:25 | | 土器観察<br>(30分)<br>〔　　〕 | 勾玉づくり<br>(30分)<br>〔　・市民学芸員〕 | 歴史展示室見学<br>(30分)<br>〔　〕 |
| 11:30 | | 郷土博物館出発 | | |

引率教員:3名(担任2名(　　先生ほか)、なかよし学級担任1名、ほか1名増員の可能性)
児童数: 43名
徒歩移動
その他:
・博物館までの歴史散策には、堂野古墳群と竪穴式住居の見学も含む
・授業は飛鳥・奈良時代までは履修済み(見込)。歴史展示室の解説範囲はどの時代でもOK。山野貝塚等地域の史跡の紹介は入れてほしい。

※　勾玉作りの会場は以下のとおりです。
　晴天時:入口前広場　　雨天時:コロネード(自販機前)と1階階段下
※　勾玉づくりキットの代金が1つ370円となります。
　使用した分を「まつした」が後日学校に直接集金にうかがいます。
※　勾玉作りは水を使います。手や腕が濡れますので各自ハンドタオルをご用意ください。

郷土博物館:(　　)　　TEL63－0811　FAX63－3693

# 長浦小学校6年生郷土博物館体験学習

実施日：令和5年7月12日（水）

| | | |
|---|---|---|
| 9:00 | 郷土博物館到着<br>2クラス　65名（うち特別支援5名） | |
| | 1組　32名　　先生 | 2組　33名　　先生 |
| 9:05<br>9:45 | 竪穴住居・古墳見学<br>常設展示見学（荒天時）<br>（40分）<br>〔　〕 | 勾玉づくり※<br>（40分）<br>〔　・市民学芸員〕 |
| | 移動 | |
| 9:55<br>10:35 | 勾玉づくり※<br>（40分）<br>〔　・市民学芸員〕 | 土器観察<br>（研修室）<br>（40分）<br>〔　〕 |
| | 移動 | |
| 10:45<br>11:25 | 土器観察<br>（研修室）<br>（40分）<br>〔　〕 | 竪穴住居・古墳見学<br>常設展示見学（荒天時）<br>（40分）<br>〔　〕 |
| 11:35 | 郷土博物館出発 | |

バス台数：　2台（大中各1台）　教員4名（各クラス担任＋2名）
到着・終了時刻：上記予定表のとおり

【注意事項】
・各クラスアルコールを持参のうえ、土器観察前に手の消毒をお願いします。
・移動の際には、入れ替えがスムーズに行えるよう、整列等のご指導をお願いいたします。
・古墳見学の際は畑の周辺を歩くため、靴が汚れる場合があります。入館の際にはよく泥を落とすようにしてください。
・バスは博物館の駐車場での待機はできません。一度学校や市役所へ戻るか、袖ケ浦公園駐車場の予約をお願いいたします（袖ケ浦公園管理組合63-6560）。

【勾玉づくりについて】
・勾玉づくりの実施場所は、晴天時は入口前広場、雨天時や酷暑時は1階廊下とコロネードに分割します。
・勾玉づくりキットの代金が1つ370円となります。
使用した分を「まつした」が後日学校に直接集金にうかがいます。
・勾玉作りは水を使います。鉛筆と、手や腕が濡れますので各自ハンドタオルをご用意ください。
※砥石を中心に使用

郷土博物館：　（　）　　TEL63－0811　FAX63－3693

# 昭和小学校6年生出前授業

実施日：令和6年6月19日（水）予備日6月20日（前日荒天の場合）
6月20日も荒天の時は古墳の話をする。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 昭和小学校　到着（8:00） | | | |
| | | 1組40名 | 2組39名 | 3組40名 |
| | | ピロティに集合して全体の挨拶 | | |
| 8:20<br>9:05 | | 坂戸神社古墳<br>周辺史跡の解説<br>〔　〕 | 土器観察<br>〔　〕<br>会場：図画工作室<br>＊6/20の場合水流担当 | 勾玉づくり<br>〔　・市民学芸員〕<br>会場：昇降口前ピロティ |
| | | | | |
| 9:15<br>10:00 | | 勾玉づくり<br>〔　市民学芸員〕<br>会場：昇降口前ピロティ | 坂戸神社古墳<br>周辺史跡の解説<br>〔　〕 | 土器観察<br>〔　〕<br>会場：図画工作室<br>＊6/20の場合水流担当 |
| | | | | |
| 10:20<br>11:05 | | 土器観察<br>〔　〕<br>会場：図画工作室<br>＊6/20の場合水流担当 | 勾玉づくり<br>〔　・市民学芸員〕<br>会場：昇降口前ピロティ | 坂戸神社古墳<br>周辺史跡の解説<br>〔　〕 |

※古墳・史跡散策のルート
昭和小学校グラウンド→坂戸神社古墳→出羽三山参拝記念碑・天岩戸の碑→坂戸神社境内古墳→昭和小学校グラウンド

※　勾玉づくりキットの代金が1つ370円となります。
博物館からまつしたに119個発注。前日に搬入
使用した分を「まつした」が後日学校に直接集金にうかがいます。

※　勾玉作りは水を使います。鉛筆と、手や腕が濡れますので
各自ハンドタオルをご用意ください。

【その他希望事項】
○勾玉作り
紙やすり中心で砥石も使用（2人で1つ）
博物館からは砥石を20個持参（水を入れる容器は学校で用意）
○土器観察
前日に搬入（16：00）机大5つ+小1つ・黒板前に1つ。

郷土博物館：　TEL63－0811　FAX63－3693

# 奈良輪小学校6年生　出前授業

令和6年6月25日(火)

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 児童111人(3クラス) | | |
| | 奈良輪小学校　到着(9:00)正面入り口から入り、理科室近くの入り口から搬入 | | |
| 9:30<br>10:15 | 2限目 | 6-3<br>37人 | ●地域にある遺跡の話　20分<br>●土器の観察　20分<br>●質問　5分 |
| | | | |
| 10:35<br>11:20 | 3限目 | 6-2<br>36人 | ●地域にある遺跡の話　20分<br>●土器の観察　20分<br>●質問　5分 |
| | | | |
| 11:30<br>12:15 | 4限目 | 6-1<br>38人 | ●地域にある遺跡の話　20分<br>●土器の観察　20分<br>●質問　5分 |

備考　　土器は5セット持参

# 中川小学校6年生郷土博物館体験学習

児童37名+先生人数調整中　　実施日　令和5年5月31日(水)

| | | |
|---|---|---|
| | 郷土博物館到着(9:00) | |
| 9:10 | Aグループ　:児童18名 | Bグループ:児童19名 |
| 9:35 | 横田郷についての解説(25分)<br>常設展示室<br>〔　〕 | 土器観察(25分)<br>研修室<br>〔　〕 |
| 10:00 | 土器観察(25分)<br>研修室<br>〔　〕 | 横田郷についての解説(25分)<br>常設展示室<br>〔　〕 |
| 10:10 | 博物館発 | |
| 10:30 | バス移動(20分) | |
| 10:45 | 打越北上原古墳群3号墳見学(15分)<br>〔　※バス同乗〕 | |
| 10:55 | バス移動(10分) | |
| 11:05 | 小高神社下着、徒歩移動(10分) | |
| 11:25 | 上村古墳群見学(20分)<br>〔　※バス同乗〕 | |
| 11:35 | バスへ移動(10分) | |
| | **11:45　中川小着、解散** | |

※博物館での見学・体験は2グループ、古墳見学は1クラスで実施。
※大型バス1台使用
※その他希望・懸案事項
・体験学習当日までに古墳時代まで授業を進める予定だが、かなり駆け足になるためあまり詳しくは行えない可能性があるので、それを前提とした説明を行っていただけるとありがたい。
・歴史の授業とは別に、総合的な学習の時間で横田郷についての調べ学習を予定しているので、横田郷についてはわかりやすい解説をお願いしたい。
・地域の古墳を実際に見たいが、子どもたちは古墳の姿かたちを上から見た時のイメージで認識すると思うので、ただ実物を見ただけでこれが古墳だという実感がわくのか不安である。

# 令和5年度平岡小学校3年生体験学習スケジュール

実施日：令和6年1月31日

| | | | |
|---|---|---|---|
| 8:55 | 郷土博物館到着<br>（生徒28名）+先生3名（担任、特別支援、他1名） | | |
| 9:00 | 始めの会（本館正面）<br>終了後グループごとに体験場所に移動 | | |
| | Aグループ14名 | | Bグループ14名 |
| 9:05 | 炭火アイロン体験<br>（市民学芸員） | 石臼体験<br>（市民学芸員） | 9:05 明かりの教室（研修室）<br>（　） |
| | 石臼体験<br>（市民学芸員） | 唐箕体験<br>（市民学芸員） | |
| | 唐箕体験<br>（市民学芸員） | 炭火アイロン体験<br>（市民学芸員） | 9:30 移動 |
| 9:50 | 餅焼き・試食 | | 9:40 昔の生活用具（2階）<br>（　） |
| 10:10 | 移動 | | |
| 10:20 | 明かりの教室（研修室）<br>（　） | | 10:05 移動 |
| | | | 10:15 炭火アイロン体験<br>（市民学芸員） / 石臼体験<br>（市民学芸員） |
| 10:45 | 移動 | | 石臼体験<br>（市民学芸員） / 唐箕体験<br>（市民学芸員） |
| 10:55 | 昔の生活用具（2階）<br>（　） | | 唐箕体験<br>（市民学芸員） / 炭火アイロン体験<br>（市民学芸員） |
| | | | 11:00 餅焼き・試食 |
| 11:20 | 出発準備・お礼の言葉 | | 11:20 |
| | 郷土博物館出発　（11：30） | | |

【持ち物について】
・炭火アイロン用：木炭（1kg/30名　※小さなかけらや、大きすぎる練炭形状のものはご遠慮ください）、綿のハンカチ
・石臼体験用：強めに炒った大豆（1.0kg/100人）
・餅焼き用：白砂糖、塩、ボール(黄な粉受け皿用)、タッパー(黄な粉持ち帰り用・ビニール袋可)、切り餅、アルミホイル（1人分ずつ切って取り皿にする）、割り箸

【駐車場について】
博物館駐車場には大型車両は駐車できません（乗降のための乗り入れはできます）。
近隣にバスを駐車する場合は、袖ケ浦公園管理組合へご連絡の上駐車場の確保をお願いします（℡0438-63-6560）

# 蔵波小学校3年生　出前授業

令和6年1月16日(火)　児童5クラス計171名

| | 蔵波小学校　到着(9:00)　使用する部屋:体育館 | | |
|---|---|---|---|
| | | | |
| 9:25<br><br><br><br><br>10:00 | 2限目 | 組<br>組 | ①明かりに関する道具の紹介（明かりの教室）<br>火打石、行灯、提灯、ろうそく・石油ランプ・白熱電球・LED<br>②今の道具と比べてみよう（15分程度）<br>→いつも使っている道具の昔の姿を知る<br>・羽釜(電気炊飯ジャー)　・炭火アイロン(スチームアイロン)・洗濯板＆手回し式洗濯機<br>③質問の時間（5分程度） |
| | | | |
| 10:30<br><br><br><br><br>11:15 | 3限目 | 組<br>組 | ①明かりに関する道具の紹介（明かりの教室）<br>火打石、行灯、提灯、ろうそく・石油ランプ・白熱電球・LED<br>②今の道具と比べてみよう（15分程度）<br>→いつも使っている道具の昔の姿を知る<br>・羽釜(電気炊飯ジャー)　・炭火アイロン(スチームアイロン)・洗濯板＆手回し式洗濯機<br>③質問の時間（5分程度） |
| | | | |
| 11:25<br><br><br><br><br>12:10 | 4限目 | 組<br>組 | ①明かりに関する道具の紹介（明かりの教室）<br>火打石、行灯、提灯、ろうそく・石油ランプ・白熱電球・LED<br>②今の道具と比べてみよう（15分程度）<br>→いつも使っている道具の昔の姿を知る<br>・羽釜(電気炊飯ジャー)　・炭火アイロン(スチームアイロン)・洗濯板＆手回し式洗濯機<br>③質問の時間（5分程度） |

| | |
|---|---|
| 資料 | 明かりの教室セット(火打石、行灯、ろうそく、燭台、提灯、石油ランプ、白熱電球)<br>昭和の生活用具(羽釜、電気炊飯器、ジャー、炭火アイロン、洗濯板と桶、手回し式洗濯機)展示室から一時持出 |
| 事前準備・レイアウト等 | ・資料搬入日時:令和6年1月　日(　)午後　時　分<br>・長机6台使用(明かりの道具、生活道具の設置用)<br>前列に明かりの道具、後列に明かり関係以外の生活用具を配置する。 |

根形中学アウトリーチ授業案（山野貝塚について）

冒頭　自己紹介
～１５分　縄文時代、山野貝塚について（山田）
１５～２０分　遺物クイズ、「これは何でしょう」の準備
机移動、手指消毒（できれば授業前）、回答用紙配布
※遺物クイズ
出土遺物を入れたカゴを準備。カゴには２種類の遺物を入れる。
①石鏃、②石棒、③石皿、④磨石、⑤貝刃、⑥２次加工のある剥片、⑦石斧、⑧楔型石器、⑨シカ骨（角付き）、⑩イヌ骨（犬歯付き）、⑪イルカ・クジラ類骨、⑫イノシシ骨
６セット用意、班ごとにカゴを置き、手に取って何の道具か、何の骨かを考えさせる。答えは各自用紙に記す。２分で隣の班にカゴを渡す。合計１２分
手に取るため、事前に手指の消毒を行う。簡単なものと、絶対分からないであろう物を混ぜ、観察し、想像してもらう。
２０～３５分　遺物クイズ
３５～４０分　答え発表（時間があれば生徒を指名して発表）
～４５分　　まとめ

遺物クイズ
問題①　これは石鏃（せきぞく）と言います。何に使う道具でしょう？
問題②　これは石棒（せきぼう）の一部です。　　何に使う道具でしょう？
問題③　名前を教えると分かってしまうので教えません。何に使う道具でしょう？
問題④　これは磨石（すりいし）と言います。何に使う道具でしょう？
問題⑤　これはただの貝ではありません。普通の貝と何が違いますか？
問題⑥　これは（retouched flake）リタッチドフレイクと言います。何に使う道具でしょう？
問題⑦　名前を教えると答えが分かるので教えません。何に使う道具でしょう？
問題⑧　これはクサビ型石器と言います。何に使う道具でしょう。難問です。
問題⑨　何の骨でしょう？
問題⑩　何の骨でしょう？
問題⑪　何の骨でしょう？
問題⑫　何の骨でしょう？

# ３　施設概要

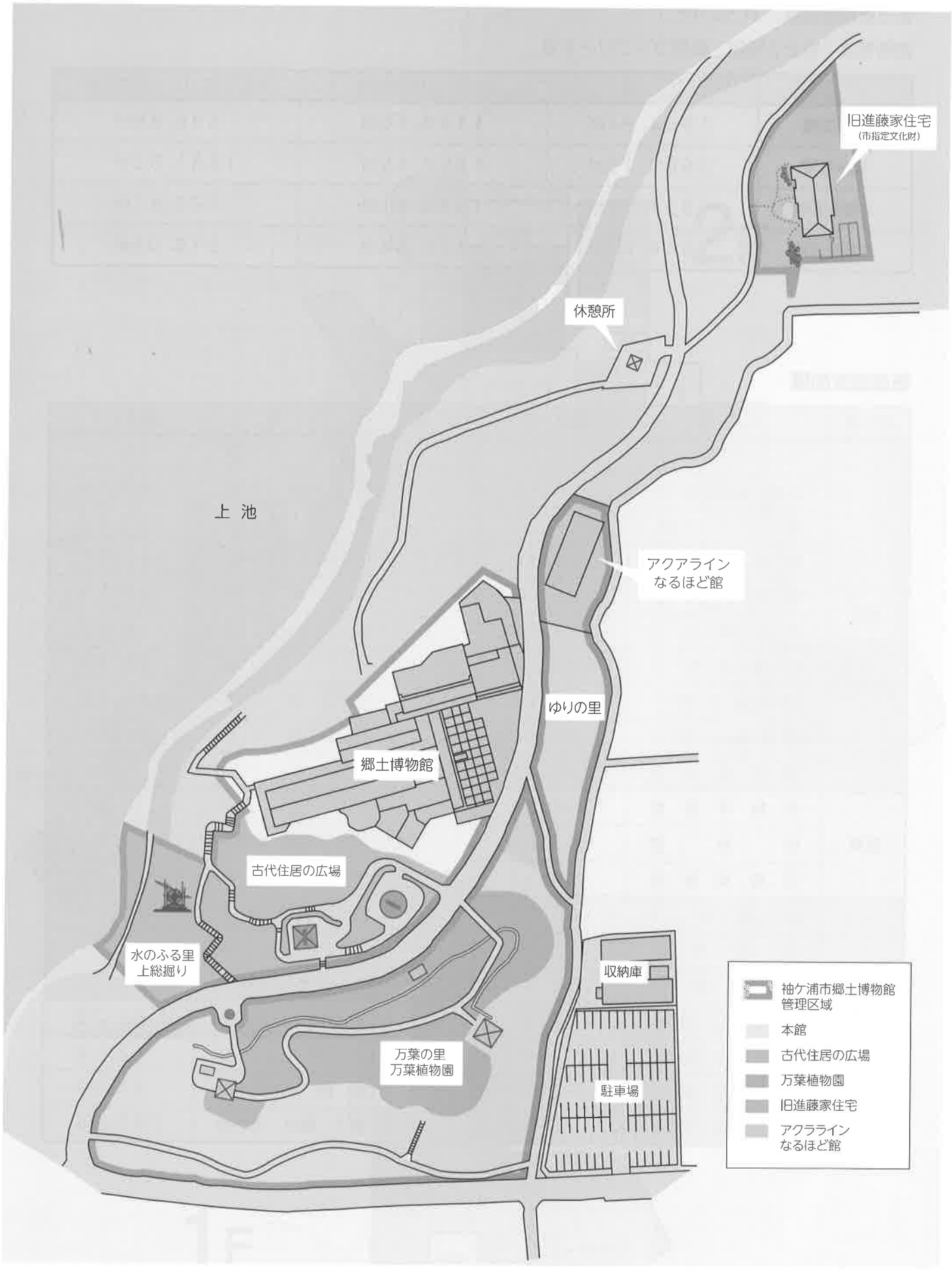
## （１）　施設整備概要

（単位：千円）

| 本　館・収蔵施設 | |
|---|---|
| 郷土博物館（本館）昭和57年現地調査（ボーリング等）委託 | 1,700 |
| 建築基本設計委託 | 4,000 |
| 建築実施設計委託 | 10,780 |
| 展示基本設計委託 | 1,394 |
| 展示実施設計委託 | 2,788 |
| 配水管布設工事 | 5,150 |
| 工事用進入路工事 | 3,531 |
| 本体建設工事 | 327,500 |
| 本体建築設計監理委託 | 2,877 |
| 廃水処理設備工事 | 7,600 |
| 外構・植栽工事実施設計委託 | 119 |
| 常設展示工事 | 64,700 |
| 特別展示ケース取付工事 | 2,400 |
| 館北側外構工事 | 3,500 |
| 外構工事 | 10,600 |
| 植栽工事 | 6,250 |
| 博物館銘板設置工事 | 870 |
| 計 | 455,759 |
| 増改築・リニューアル（平成10年）<br>増改築工事 | 575,300 |
| 展示基本設計委託 | 5,925 |
| 展示実施設計委託 | 11,433 |
| 建築基本・実施設計 | 21,482 |
| 展示業務委託 | 295,600 |
| 計 | 909,740 |
| 第3次展示構想計画<br>（平成19～20年） | |
| 展示基本設計委託 | 7,350 |
| 展示実施設計委託 | 14,700 |
| 計 | 22,050 |
| 収蔵庫（昭和58年・平成6年）<br>敷地面積　694㎡<br>※大型民具ならびに出土文化財の保管を行うために2棟の収蔵庫を建設。 | |
| 〈構造等〉<br>収蔵庫4：軽量鉄骨1階建　建設工事<br>建築面積132.5㎡　延床面積132.5㎡ | 6,300 |
| 収蔵庫5：鉄骨2階建　建設工事<br>建築面積160.08㎡　延床面積401.51㎡ | 28,840 |
| 造成工事 | 900 |
| 計 | 36,040 |

| 屋　外　施　設 | |
|---|---|
| 古代住居の広場（昭和62年～63年）<br>面積　4,300㎡<br>※博物館建設用地から発見された弥生時代と奈良時代の住居2棟の復元。 | |
| 弥生時代住居復元 | 4,950 |
| 修復委託（H20） | 4,080 |
| 奈良時代住居復元 | 5,000 |
| 修復委託（H19） | 4,515 |
| 造成工事 | 16,560 |
| 計 | 35,105 |
| 万葉植物園（平成元年～2年）<br>面積　7,900㎡<br>※万葉集に詠まれた草本等105種の植栽、歌碑の設置等 | |
| 実施設計 | 1,820 |
| 測量 | 400 |
| 造成等整備 | 80,862 |
| 杭打ち | 140 |
| 歌碑製作設置 | 3,759 |
| 計 | 86,981 |
| 旧進藤家住宅（平成元年～3年）<br>敷地面積　1,563㎡<br>※市指定有形文化財ー建造物ーである旧進藤家住宅を移築復元。 | |
| 埋蔵文化財調査 | 7,236 |
| 解体移築復元工事 | 31,106 |
| 外構整備工事 | 124,993 |
| 計 | 163,335 |
| 復元石造物群（平成2年～3年）<br>※市内に所在する石造物で歴史的価値の高いもの13基を復元。 | 15,810 |
| アクアラインなるほど館<br>（平成10年4月～11年）<br>敷地面積　861.22㎡<br>※アクアラインに関する模型・映像等の資料紹介を行う展示施設の建設 | |
| 〈構造等〉<br>鉄骨1階建　造成工事<br>（建築面積254.24㎡） | 18,322 |
| 建築・展示工事 | 67,147 |
| 計 | 85,469 |

## 博物館管理区域図


旧進藤家住宅
(市指定文化財)
休憩所
上 池
アクアライン
なるほど館
ゆりの里
郷土博物館
古代住居の広場
水のふる里
上総掘り
収納庫
万葉の里
万葉植物園
駐車場
袖ケ浦市郷土博物館
管理区域
本館
古代住居の広場
万葉植物園
旧進藤家住宅
アクラライン
なるほど館

## （2） 施設概要

管理敷地総面積　21,557㎡

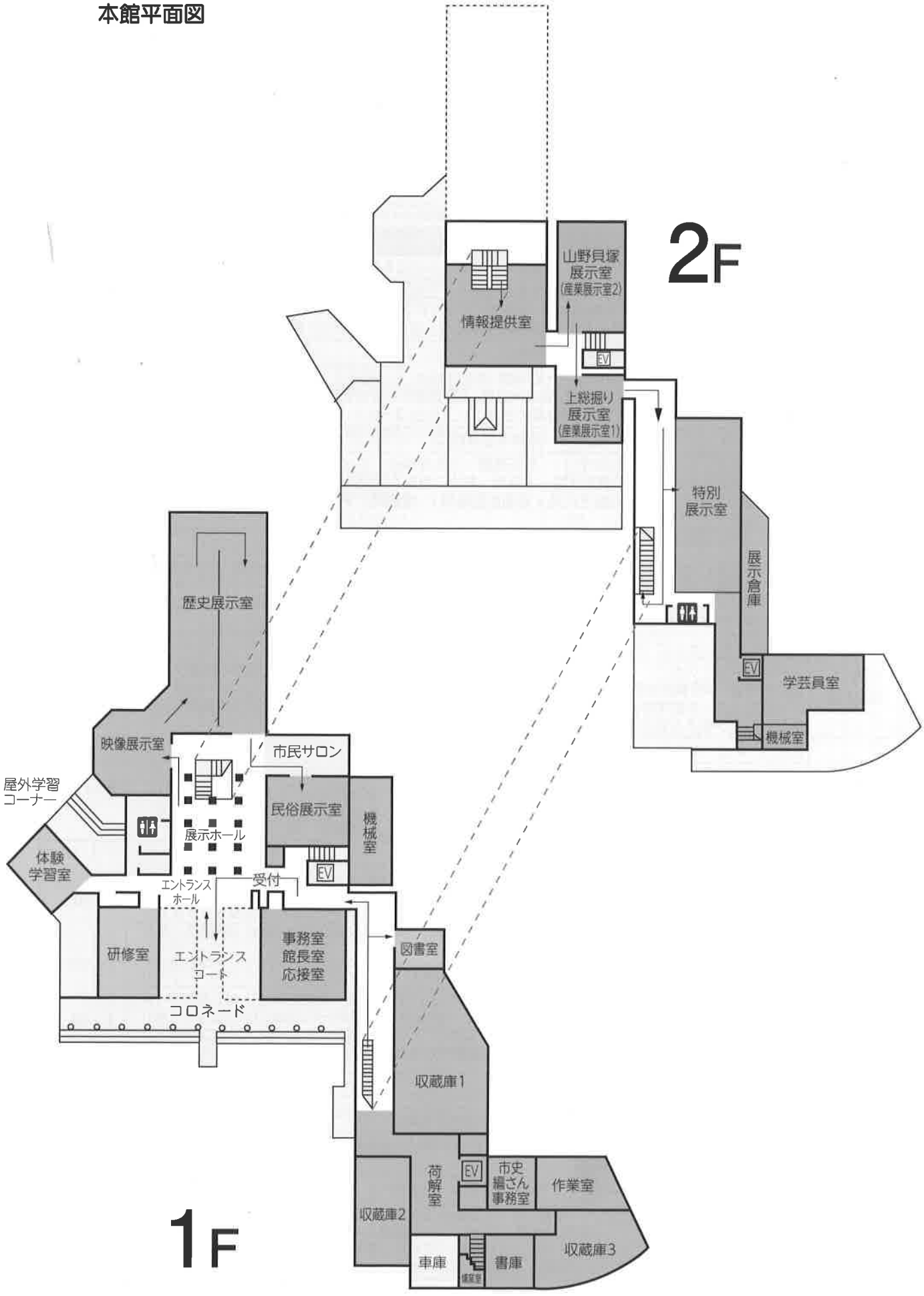
建物構造　地上２階建　鉄筋コンクリート造

| | 総　計 | 昭和57年開館当時 | 平成10年リニューアル時 |
|---|---|---|---|
| 建築面積 | １９５４．２４㎡ | １１４８．３６㎡ | ８０５．８８㎡ |
| 延床面積 | ２６８０．２０㎡ | １３９８．６５㎡ | １２８１．５５㎡ |
| １階床面積 | １８３１．２８㎡ | １０５９．８１㎡ | ７７１．４７㎡ |
| ２階床面積 | ８４８．９２㎡ | ３３８．８４㎡ | ５１０．０８㎡ |

### 各施設床面積

| 用　途 | 名　称 | 面積(㎡) | 用　途 | 名　称 | 面積(㎡) |
|---|---|---|---|---|---|
| 展示 | エントランスコート | １２２．５０ | 管理 | 館長室・応接室 | ３３．３２ |
| | エントランスホール | ５８．１５ | | 事　務　室 | ６９．７６ |
| | 展示ホール | １４７．３８ | | 学芸員室 | ８７．２１ |
| | 映像展示室 | ５９．８６ | | 市史編さん事務室 | ３５．８７ |
| | 歴史展示室 | ２４２．６８ | | 作　業　室 | ５９．２０ |
| | 民俗展示室 | ７９．９５ | | 暗　室 | ６．０９ |
| | 情報提供室 | １９６．１９ | | 書　庫 | ３９．８６ |
| | 産業展示室１ | ５８．９５ | | 燻蒸室 | １３．９５ |
| | 産業展示室２ | ９６．８３ | | 荷解室 | ６５．６６ |
| | 特別展示室 | １８７．４５ | | 受　付 | ３．０４ |
| 教育 | 体験学習室 | ５０．００ | | 守衛室 | ８．６９ |
| | 研修室 | ７２．６０ | | エレベーター・機械室 | ７．４７ |
| | 図書閲覧室 | ２９．３２ | | 空調・機械室 | １４．９５ |
| 収蔵 | 収蔵庫１ | １９７．１０ | | 空調・機械室 | ２７．０９ |
| | 収蔵庫２ | ８３．６４ | | トイレ３ | １０．３１ |
| | 収蔵庫３ | ８３．８７ | | エレベーター・機械室 | ２７．０６ |
| | 収蔵庫４(屋外) | １３４．４９ | 共有 | トイレ１ | ３２．２５ |
| | 収蔵庫５(屋外) | ３１７．９８ | | トイレ２ | １２．５９ |
| | 展示倉庫１ | １６．９４ | | 市民サロン | ３７．５０ |
| | 展示倉庫２ | ４５．６４ | | 廊下・階段・その他 | ２９０．５８ |

## 本館平面図


2F
山野貝塚
展示室
(産業展示室2)
情報提供室
EV
上総掘り
展示室
(産業展示室1)
特別
展示室
展示倉庫
EV
学芸員室
機械室
歴史展示室
映像展示室
市民サロン
屋外学習
コーナー
民俗展示室
機械室
展示ホール
体験
学習室
EV
エントランス
ホール
受付
研修室
エントランス
ホール
事務室
館長室
応接室
図書室
コロネード
収蔵庫1
荷解室
EV
市史
編さん
事務室
作業室
収蔵庫2
車庫
書庫
収蔵庫3
1F